

卒業生のいま



甲賀市立甲南中学校 理科教諭 ^{さいとう こうき} 齋藤 弘毅さん

■ Profile 北海道出身。平成17年3月 教育学部理科教育課程 卒業。
同17年4月 甲賀市立信楽中学校に赴任。同21年4月 甲賀市立甲南中学校へ。
現在 3年生担任、生徒会顧問、理科主任、サッカー部顧問。自身も小学5年生からサッカーを始め、今も「愛蹴会」(滋賀大学出身の教員中心で組織されている伝統あるサッカーチーム)でプレーしている。同19年に教育学部の同級生と結婚。昨年12月に第2子が生まれ2児の父に。人間としての幅も広がり、教師として今後ますますの活躍が期待される。



■ 教師としての武器を持つ

「サッカーは人生の縮図だ」と言われますが、辛いことも忍耐強く乗り越えた大学時代の経験が、教師としての今の自分を支えているように思います。子どもたちの様子を注意深く見ることができるようになりましたし、あせって怒らなくなりました。二校目となる甲賀市立甲南中学校では念願のサッカー部を指導。平成22年8月に行われた第41回全国中学校サッカー大会に出場し、ベスト16に入りました。全国でも有名な名門校なので、プレッシャーは大きいですが、今の一番の目標は、子ども達と全国大会で活躍するということ、また部活で子どもたちを頑張り切らせ、自分がサッカーを通して成長したように、サッカーで人を育てていくことです。教え子から世界で活躍できる選手が出たら最高ですね。同時に理科の教師としてより専門的な知識を身に付け、指導者としてレベルアップしたいと思います。

教師になったばかりのころ、先輩から「教師としての武器を持つ」と言われましたが、ほくにとってそれはサッカー。教師でなくても、自分にとって自信の持てるものがあるということは強みです。後輩の皆さんも何か夢中になってやれるものを見つけてください。いろいろな経験も視野を広げることに役立ちます。

■ 滋賀大学経済学部OBの父の勧めで受験

小・中・高と札幌市内の学校へ通い、サッカー漬けの日々を過ごしていました。大学受験を控え進路で悩んでいるとき、滋賀大学経済学部OBでもある父から勧められて教育学部を受験。無事合格しました。

入学後、初めて滋賀に来ましたが、冬は風が強く、北海道よりも寒く感じました。でも、自然が豊かで、違和感なく生活に溶け込めたように思います。キャンパスではみんなが顔見知り。アットホームで過ごしやすい大学でした。

教師になりたいと思ったきっかけは教育実習です。指導教員から「実習期間は短いので、全体を見るより何人かの子どもに注目しては？」とアドバイスを受け、特に落ちつきがなく目についた中学2年生の女子生徒と話をするようになりました。最後に「話を聞いてくれてありがとう。授業がわかりやすくて嬉しかった」と言われ、教師っていいもんだなと……中学校なら部活で好きなサッカーにも関われると思い、滋賀県の教員採用試験を受けました。

■ 県内の学生リーグで悲願の優勝を達成

大学在学中もサッカー部に籍を置き、4年の時にはキャプテンを務めました。部員数は20人弱で、「真剣に優勝をめざしたい」とみんな口にはするものの、大学生ともなれば、二十歳を過ぎてお酒や煙草も解禁になり誘惑も多いだけに、まとまるのが大変でした。部員それぞれに事情があり、サッカーだけに集中できる状態ではなかったのですが、サッカーが大好きで、目標とするリーグ優勝、昇格を目指して励まし合い頑張った結果、リーグ優勝を果たせたのがとても嬉しかったですね

昨年、小学5年生からサッカー一筋。甲南中学校ではサッカー部の顧問を務め、

昨年は全国大会に出場。生徒たちと共に夢を追っています。

株式会社デンソー ^{つじ みきこ} 辻 美己子さん



■ Profile 愛知県出身。平成21年3月 経済学部経済学科 卒業。
同21年4月 株式会社デンソー入社。現在、熱機器製造1部生産管理室所属。
高校時代から経済学に興味を持ち、「経済学を勉強するなら滋賀大学がよい」という担任の勧めもあって受験。大学時代は少林寺拳法部に所属し、少拳士二段を有するスポーツウーマン。今でも同回生や部活を通じての先輩後輩の絆は強い。仕事においては幅広い視野と明確なビジョンを持ち、明朗闊達。

入社3年目から熱機器のヨーロッパ向け輸出を一人で担当。自分の仕事は各国の経済成長に貢献していると思うと、とてもやりがいを感じます。

■ より良い経済効果が豊かな国民生活を生み出す

「豊かな国民生活を生み出すための種をまくような会社に就職したい」というのが、私の願いでした。自動車部品メーカーを選んだのは、日本の基幹産業で、経済波及効果が大きい自動車関連産業の一つであり、様々な自動車メーカーに付加価値の高い製品を供給することが、自動車業界全体の底上げにつながると思ったからです。産業が発展しお金の流れがうまく行けば、国の経済は潤い国民生活も豊かになります。

デンソーには滋賀大卒業生がとても多く、会社訪問をさせていただいたところ社内の雰囲気とても良く、ぜひここで働かせていただきたいと思うようになりました。

入社後の新入社員研修を経て、現在の部署に配属されました。1年半ぐらいは先輩と一緒にヨーロッパ向けの熱機器の輸出を担当していましたが、今は一任されています。若手に責任のある仕事を任せていただけるので、とてもやりがいがあります。

■ 部活や寮生活で培われた協調性を生かして

大学の学生寮では「少林寺拳法部」に所属している先輩がとても多く、興味津々でのぞいてみたら、これはおもしろそうだなと……高校時代はハンドボールをやっていた、一人でやるよりもみんなで取り組むスポーツがいいなと思って入部しました。少林寺拳法は個人技のように思われがちですが、二人一組でやる演武は互いに見せ合って、アドバイスをもらいます。大学側の配慮で夜間の学生も部活に参加できるよう、昼間に練習時間のある曜日もあり、みんなで高め合いながら練習できました。さらに、夏休

みには本部のある香川へ合宿に行きました。

4年間の部活動と寮生活で育んだ団体行動や協調性は、私にとっての大きな財産。社会に出てからその必要性をより強く感じるようになりました。

■ ほかの大学にはない、信頼という名の滋賀大カラー

デンソーには東大や京大といった、偏差値の大きい大学の卒業生がたくさんいます。そんな人たちに混じって滋賀大学から毎年内定者が出ています。それは4年間、歴史と伝統の息づく彦根で暮らし、学生らしい生活に取り組むなかで自然と身に付き、誠実で何ごとにも一生懸命に取り組む滋賀大カラーに寄せられる企業経営トップの絶大な信頼ゆえだと思います。もし滋賀大学に来なかったら、私はデンソーから内定をいただけなかったでしょう。やや控えめな印象のある滋賀大生ですが、話をすれば内包するすばらしい知識や考えを相手に伝えることができます。就職活動では積極性と自分の軸をぶらさないことが大切です。

